

30. 6. 2004

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

REC'D 19 AUG 2004

W/O PCT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日
Date of Application: 2003年 8月28日

出願番号
Application Number: 実願2003-271575
[ST. 10/C]: [JP2003-271575 U]

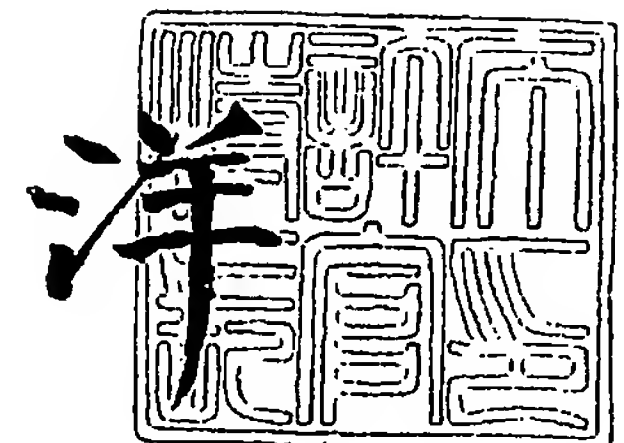
出願人
Applicant(s): 株式会社リンテック

PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2004年 8月 5日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小川



【書類名】 実用新案登録願
【整理番号】 H15U105
【提出日】 平成15年 8月28日
【あて先】 特許庁長官 殿
【考案者】
 【住所又は居所】 神奈川県横須賀市鷹取町 1 丁目 4 0 番地
 【氏名】 富田 真次
【考案者】
 【住所又は居所】 神奈川県横浜市南区六ッ川 3 丁目 4 5 番 1 号
 【氏名】 土屋 登
【考案者】
 【住所又は居所】 埼玉県朝霞市宮戸 2 丁目 1 8 番 5 1 号
 【氏名】 鈴木 紀博
【実用新案登録出願人】
 【識別番号】 501359412
 【氏名又は名称】 株式会社リンテック
 【代表者】 富田 真次
【納付年分】 第 1 年分から第 3 年分
【提出物件の目録】
 【物件名】 実用新案請求の範囲 1
 【物件名】 明細書 1
 【物件名】 図面 1
 【物件名】 要約書 1

【国際特許分類】
【請求項の数】 5

【書類名】 実用新案登録請求の範囲**【請求項 1】**

L A N ケーブルの先端に一体的に取り付けられ、抜き取り可能な状態でイントラネットを構成するハブの複数の差込口に挿入され、その挿入状態がラッチされる複数の L A N ケーブル用コネクタに着脱自在に取り付けられ、取り付けられた状態においては前記 L A N ケーブル用コネクタの前記差込口への夫々の挿入状態をロックし、取り外された状態においては前記 L A N ケーブルコネクタを前記差込口から夫々の抜き取り可能とするロック組体であって、

上下方向に分離可能に設けられ、組み付けられた状態で前記 L A N ケーブル用コネクタの上下の面を、実質的に固着する状態で挟み込むようになされた第 1 及び第 2 の囲繞体と、

前記第 1 の囲繞体に設けられ、前記コネクタに対して軸方向に沿う移動に係止する係止手段と、

前記第 2 の囲繞体に設けられ、前記 L A N ケーブル用コネクタに備えられたラッチ用フラップのラッチ解除方向の動きを規制する規制手段と、
を具備することを特徴とする L A N ケーブル用コネクタのロック組体。

【請求項 2】

前記第 1 の囲繞体が、前記 L A N ケーブル用コネクタの前記ラッチ用フラップが設けられた面を覆うように形成され、前記第 2 の囲繞体が、前記ラッチ用フラップが設けられた面とは反対の面を覆うように形成されていることを特徴とする請求項 1 に記載の L A N ケーブル用コネクタのロック組体。

【請求項 3】

前記係止手段は、前記コネクタの前記ラッチ用フラップが設けられた面とは反対側の面に形成された溝に係止される係止用突起を備えることを特徴とする請求項 1 に記載の L A N ケーブル用コネクタのロック組体。

【請求項 4】

前記規制手段は、前記第 1 の囲繞体及び前記第 2 の囲繞体が前記コネクタの上下を挟むように組み付けられた状態で、前記第 2 の囲繞体から前記ラッチ用フラップの根元付近まで延出し、該ラッチ用フラップの押し込み方向の偏倚を規制する突出片を備えることを特徴とする請求項 1 に記載の L A N ケーブル用コネクタのロック組体。

【請求項 5】

前記第 1 及び第 2 の囲繞体は、錠前により、互いに分離不能に連結され、錠前が開錠されることにより、互いに分離可能となることを特徴とする請求項 1 に記載の L A N ケーブル用コネクタのロック組体。

【書類名】 明細書

【考案の名称】 L A N ケーブル用コネクタのロック組体

【技術分野】

【 0 0 0 1 】

本考案は、L A N ケーブルの先端に一体的に取り付けられ、イントラネットを構成するハブ等の差込口に抜き差し自在に設けられたコネクタを利用して、コンピュータの盗難を防止するための L A N ケーブル用コネクタのロック組体に関する。

【背景技術】

【 0 0 0 2 】

従来から、コンピュータ（以下、単に P C と呼ぶ。）の盗難防止のために、P C をワイヤー等の連結具で固定部材（例えば、机等）に連結させて、その設置位置に止め置かせる技術は知られており実用に供されている。しかしながら、上述した連結具を用いる場合、現在販売中の P C では連結具を通す穴が形成されておらず、そのため、P C の表面に連結具を通すための穴が形成されたフック部材を接着しなければならないものであった。このように、フック部材を一旦 P C の表面に接着してしまうと、これを取り外すことが極めて困難となり、これを無理やり取り外そうとすると、P C の筐体を破損する虞もあり、改善が要望されていた。そこで、本願考案者は、実願 2 0 0 3 - 2 7 0 4 3 7 において、P C の筐体に何ら別部材をつけることなく、この P C をその設置場所に止め置かせて、盗難防止の効果を奏することの出来る L A N ケーブル用コネクタのロック組体を既に提案した。このロック組体は、P C に一箇所設けられている L A N ケーブル用差込口に、L A N ケーブルのコネクタ付近に装着された状態で差し込まれ、L A N ケーブルと P C との接続を抜き取り不可とするものであった。

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【 0 0 0 3 】

しかし、上述のロック組体は、ハブを介してサーバーに複数の P C が接続されるイントラネット構成などの場合、ハブに接続された L A N ケーブルを抜くことにより、その L A N ケーブルに接続された P C が上述のロック組体で P C と L A N ケーブルの接続状態がロックされていても、P C と L A N ケーブルを一体で持ち出せることが可能になってしまう。そのため、イントラネット構成では、上述のロック組体のみでは、P C をその設置場所に止め置かせて、盗難防止の効果を果たせるには不十分であった。

【 0 0 0 4 】

さらに、ハブに接続された L A N ケーブルを故意または誤って抜いたり、異なる L A N ケーブルを故意または誤って差込むことで発生する、イントラネットのシステム障害等のトラブルを防止することも不十分であった。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 5 】

この考案の目的は、上述した事情に鑑みなされたもので、この考案の主たる目的は、ハブを介してサーバーに複数の P C が接続されるイントラネット構成などの場合にも、P C を実質的に移動することが出来ないようにして、盗難防止や L A N ケーブルの抜き差しによるトラブル防止の効果を図ることの出来る L A N ケーブル用コネクタのロック組体を提供することである。

【 0 0 0 6 】

また、この考案の他の目的は、複数の L A N ケーブル用コネクタに対しハブの複数の差込口への挿入状態をロックすることにより、ハブから L A N ケーブルを抜けない状態とすることにより L A N ケーブルに接続されている P C を移動することが出来ないようにして、盗難防止の効果を奏することの出来る L A N ケーブル用コネクタのロック組体を提供することである。

【 0 0 0 7 】

上述した課題を解決し、目的を達成するため、この考案に係わる L A N ケーブル用コネ

クタのロック組体は、請求項1の記載によれば、LANケーブルの先端に一体的に取り付けられ、抜き取り可能な状態でイントラネットを構成するハブの複数の差込口に挿入され、その挿入状態がラッチされる複数のLANケーブル用コネクタに着脱自在に取り付けられ、取り付けられた状態においては前記LANケーブル用コネクタの前記差込口への夫々の挿入状態をロックし、取り外された状態においては前記LANケーブルコネクタを前記差込口から夫々の抜き取り可能とするロック組体であって、上下方向に分離可能に設けられ、組み付けられた状態で前記LANケーブル用コネクタの上下の面を、実質的に固着する状態で挟み込むようになされた第1及び第2の囲繞体と、前記第1の囲繞体に設けられ、前記コネクタに対して軸方向に沿う移動を係止する係止手段と、前記第2の囲繞体に設けられ、前記LANケーブル用コネクタに備えられたラッチ用フラップのラッチ解除方向の動きを規制する規制手段と、を具備することを特徴とする。

【0008】

上述した課題を解決し、目的を達成するため、この考案に係わるLANケーブル用コネクタのロック組体は、請求項2記載によれば、前記第1の囲繞体が、前記ラッチ用フラップが設けられた面を覆うように形成され、前記第2の囲繞体が、前記ラッチ用フラップが設けられた面とは反対の面を覆うように形成されていることを特徴とする。

【0009】

上述した課題を解決し、目的を達成するため、この考案に係わるLANケーブル用コネクタのロック組体は、請求項3の記載によれば、前記係止手段は、前記LANケーブル用コネクタの前記ラッチ用フラップが設けられた面とは反対側の面に形成された溝に係止される係止用突起を備えることを特徴とする。

【0010】

上述した課題を解決し、目的を達成するため、この考案に係わるLANケーブル用コネクタのロック組体は、請求項4の記載によれば、前記規制手段は、前記第1及び第2の囲繞体が前記コネクタの上下を挟むように組み付けられた状態で、前記第2の囲繞体から前記ラッチ用フラップの根元付近まで延出し、該ラッチ用フラップの押し込み方向の偏倚を規制する突出片を備えることを特徴とする。

【0011】

上述した課題を解決し、目的を達成するため、この発明に係わるLANケーブル用コネクタのロック組体は、請求項5の記載によれば、前記第1及び第2の囲繞体は、錠前により、互いに分離不能に連結され、錠前が開錠されることにより、互いに分離可能となることを特徴とする。

【考案の効果】

【0012】

この考案のLANケーブル用コネクタのロック組体によれば、ハブを介してサーバーに複数のPCが接続されるイントラネット構成などの場合にも、PCを実質的に移動することが出来ないようにして、盗難防止の効果を図ることが出来る。

【0013】

また、この考案のLANケーブル用コネクタのロック組体によれば、複数のLANケーブル用コネクタに対しハブの複数の差込口への挿入状態をロックすることにより、ハブからLANケーブルを抜けない状態とし、したがってLANケーブルに接続されているPCを移動することが出来ないようにして、盗難防止の効果を奏することの出来る。

【0014】

また、ハブに接続されたLANケーブルを故意または誤って抜いたり、異なるLANケーブルを故意または誤って差込むことにより発生するイントラネットのシステム障害を防止することが出来る。

【考案を実施するための最良の形態】

【0015】

以下、本考案に係わるLANケーブル用コネクタのロック組体の一実施例について添付図面を用いて詳細に説明する。

【0016】

図1は本考案になるロック組体の組み上げられた状態を示す斜視図、図2は本考案になるロック組体が組み上げられ、コネクタが差込口へ挿入された状態でロックされる様子を示す断面図である。

【0017】

図1、図2に示すように、LANケーブル用コネクタのロック組体（以下、単にロック組体と呼ぶ）10は、第1の囲繞体12と第2の囲繞体14とから構成される。さらに、ロック組体10は、LANケーブル用コネクタ（以下、単にコネクタと呼ぶ。）106に取り付けられ、コネクタ106がイントラネットを構成するハブの差込口104に挿入される状態をロックし或は解除するよう取り付けられている。

【0018】

すなわち、このロック組体10は、コネクタ106に取り付けられた状態では、錠前108及び109の旋錠によりコネクタ106が差込口104へ挿入された状態でロックされる。また、ロック組体10は、錠前108及び109の開錠によりコネクタ106から取り外され、コネクタ106を差込口104からの抜き取りを可能とする。このようにロック組体10は、コネクタ106の差込口104への挿入状態をロックすることにより、ハブからコネクタ106が抜けない状態とし、PCの盗難を防止することができるようになされている。

【0019】

まず、図1について詳細に説明する。第2の囲繞体14は、第1の囲繞体12の上部内側に重なるように設けられている。第1の囲繞体12においては、底部12Aの両端部に第1の起立片12B、第2の起立片12Cが立ち上がっている。この第1の起立片12B、第2の起立片12Cの内側に、第2の囲繞体14の本体14Aの両端部から立ち上がっている第1の起立片14Bと第2の起立片14Cがそれぞれ重なり合うように構成されている。また、第1の囲繞体12のロック穴12Fが第2の囲繞体14のロック穴14Fとが重なりロック竿108Aの挿通により錠前108が、第1の囲繞体12のロック穴12Gが第2の囲繞体14のロック穴14Gとが重なりロック竿109Aの挿通により錠前109が、それぞれ旋錠可能となる。

【0020】

次に図2について詳細に説明する。図2は、ロック組体10を構成する第1の囲繞体12及び第2の囲繞体14がコネクタ106に取り付けられた状態を、起立片12Cから見た断面図として示した図である。錠前109の旋錠によりコネクタ106は差込口104へ挿入されたままロックされる。すなわち、コネクタ106が、差込口104に挿入された状態で、第1の囲繞体12の底部12Aがコネクタ106の底部106Bに接触するよう取り付けられる。この場合、第1の囲繞体12の第3の起立片12Dに設けられている係止用凹部16は、コネクタ106の根元の溝部106Cに食い込む状態となっている。さらに、第2の囲繞体14の突出片14Eは、コネクタ106が差込口104に挿入されている状態でコネクタ106の上面106Aに接触し沿うようにラッチ用フラップ110の下に挿入されている。この状態で、図2に示すように、ロック組体10を構成する第1の囲繞体12及び第2の囲繞体14は、錠前109の旋錠によりコネクタ106が差込口104へ挿入されたままロックされることになる。第1の囲繞体12の第3の起立片12Dに設けられている係止用凹部16は、図1に示すように例えば5個の凹部を有する。また、第2の囲繞体14の突出片14Eは、図1に示すように例えば5個の突出部を有する。この5個の突出部により5本のLANケーブルのコネクタ106を5個の差込口104で同時にロックすることが可能となる。

【0021】

次に、第1の囲繞体12の形状の詳細を示す。図3は、第1の囲繞体12の正面図である。第1の囲繞体12は、コネクタ106の底面106Bが接触する底部12Aと、この底部12Aの軸方向に沿う一方の側縁から起立した第1の起立片12B及び他方の側縁から起立した第2の起立片12Cと、この底部12Aの軸方向に直行する方向に沿う後縁

から起立した第 3 の起立片 1 2 D とから一体的に形成されている。

【 0 0 2 2 】

また、図 3 に示すように、第 1 の起立片 1 2 B 及び他方の側縁から起立した第 2 の起立片 1 2 C は同じ高さ及び幅を有し、第 1 の起立片 1 2 B には錠前 1 0 8 のロック竿 1 0 8 A を挿通するロック穴 1 2 F が、第 2 の起立片 1 2 C には錠前 1 0 9 のロック竿 1 0 9 A を挿通するロック穴 1 2 G が形成されている。

【 0 0 2 3 】

また、上述した第 3 の起立片 1 2 D には、係止用凹部 1 6 が設けられている。すなわち、この係止用凹部 1 6 は、図 2 に示すように、ロック組体 1 0 がコネクタ 1 0 6 に組み付けられた状態で、コネクタ 1 0 6 の後方部位に多数形成された溝部 1 0 6 C の一つに嵌まり込み係止可能とするものである。この係止された状態で、第 1 の囲繞体 1 2 (従って、ロック組体 1 0 全体) の軸方向に沿う移動が禁止されるようになされている。係止用凹部 1 6 には例えば 5 個の係止用凹部が設けられており 5 本までの LAN ケーブルに対応出来るものである。

【 0 0 2 4 】

図 4 は、第 1 の囲繞体 1 2 の側面図である。第 1 の起立片 1 2 B には錠前 1 0 8 のロック竿 1 0 8 A を挿通するロック穴 1 2 F が形成されている。また係止用凹部 1 6 は、第 1 の起立片 1 2 B に沿うように立ち上がっている。

【 0 0 2 5 】

図 5 は、第 1 の囲繞体 1 2 の平面図である。底部 1 2 A の両端に第 1 の起立片 1 2 B 及び第 2 の起立片 1 2 C が設けられている。また、係止用凹部が設けられている第 3 の起立片 1 2 D が、第 1 の起立片 1 2 B 及び第 2 の起立片 1 2 C を結ぶ一辺に設けられている。

【 0 0 2 6 】

次に、第 2 の囲繞体 1 4 の形状の詳細を示す。図 6 は第 2 の囲繞体 1 4 の平面図である。第 2 の囲繞体 1 4 は、板状の本体 1 4 A と、この本体 1 4 A の軸方向に沿う一方の側縁から起立した第 1 の起立片 1 4 B 及び他方の側縁から起立した第 2 の起立片 1 4 C と、この本体 1 4 A の前縁から前方に突出する突出片 1 4 E とから一体的に形成されている。尚、この突出片 1 4 E は例えば 5 個の突起からなっている。これは、5 本までの LAN ケーブルに対応出来るものである。

【 0 0 2 7 】

図 7 は第 2 の囲繞体 1 4 の側面図である。第 1 の起立片 1 4 B には錠前 1 0 9 のロック竿 1 0 9 A を挿通するロック穴 1 2 F が形成されている。また突起片 1 4 が、第 1 の起立片 1 4 B の底部の本体 1 4 A の一部となり突き出している。

【 0 0 2 8 】

図 8 は第 2 の囲繞体 1 4 の正面図である。第 1 の起立片 1 4 B 及び他方の側縁から起立した第 2 の起立片 1 4 C は同じ高さ及び幅を有する。第 1 の起立片 1 4 B には錠前 1 0 8 のロック竿 1 0 8 A を挿通するロック穴 1 4 F が、第 2 の起立片 1 4 C には錠前 1 0 9 のロック竿 1 0 9 A を挿通するロック穴 1 4 G が形成されている。

【 0 0 2 9 】

以下に、第 1 の囲繞体 1 2 と第 2 の囲繞体 1 4 を互いに組み立てる手順について図 9 を参照して説明する。

【 0 0 3 0 】

図 9 は第 1 の囲繞体 1 2 と第 2 の囲繞体 1 4 を互いに組み立てた時の正面図である。第 1 の囲繞体 1 2 は、上方から組み付けられた第 2 の囲繞体 1 4 と各々の起立片が一部重なるように組み立てられる。すなわち、第 1 の囲繞体 1 2 の第 1 の起立片 1 2 B のロック穴 1 2 F と第 2 の囲繞体 1 4 の第 1 の起立片 1 4 B のロック穴 1 4 F が同じ位置となるように、また、第 1 の囲繞体 1 2 の第 2 の起立片 1 2 C のロック穴 1 2 G と第 2 の囲繞体 1 4 の第 2 の起立片 1 4 C のロック穴 1 4 G が同じ位置となるように組み立てられる。

【 0 0 3 1 】

この後、コネクタ 1 0 6 が、差込口 1 0 4 に挿入された状態で、第 1 の囲繞体 1 2 の底

部 12 A がコネクタ 106 の底部 106 B に接触するように、第 1 の囲繞体 12 の第 1 の起立片 12 B 及び第 2 の起立片 12 C がコネクタ 106 の上方に位置するように構成される。この場合、第 1 の囲繞体 12 の第 3 の起立片 12 D に設けられている係止用凹部 16 は、コネクタ 106 の根元の溝部 106 C に食い込む状態となる。さらに、第 2 の囲繞体 14 の突出片 14 E は、コネクタ 106 が差込口 104 に挿入されている状態でコネクタ 106 の上面 106 A に接触し沿うようにラッチ用フラップ 110 の下に挿入される。この状態で、ロック組体 10 を構成する第 1 の囲繞体 12 及び第 2 の囲繞体 14 は図 9 に示すような構成になり、錠前 108 及び 109 の旋錠によりコネクタ 106 が差込口 104 へ挿入されたままロックされる。

【0032】

尚、図 10 及び図 11 を参照して、通常の状態における（即ち、この実施例のロック用組体 10 を用いていない状態における）コネクタ 106 の複数の差込口 104 への挿入動作を説明する。

【0033】

図 10 はコネクタ 106 と差込口 104 の断面図である。先ず、コネクタ 106 の上面 106 A には、弾性的に押し込み偏倚自在にフラップ 110 が取り付けられており、詳細には、図 10 に示すように、これの先端が、コネクタ 106 の上面 106 A の前端縁に一体的に取り付けられている。

【0034】

ここで、フラップ 110 は、その基端部 110 A が幅広に設定されており、この基端部 110 A に引き続く先端部 110 B は、基端部 110 A よりも幅狭に設定されている。即ち、フラップ 110 は、幅方向に関して 2 段構造を呈しており、略中ほどで、段差が形成されているものである。

【0035】

図 11 は、複数の差込口を示す斜視図である。差込口 104 は、図 11 に示すように、開口部の上縁には、フラップ 110 の幅広の基端部 110 A が挿通可能な第 1 の溝部 104 A が形成されており、この第 1 の溝部 104 A の上底面には、フラップ 110 の幅広の基端部 110 A が挿通不能で、幅狭の先端部 110 B のみが挿通可能な第 2 の溝部 104 B が形成されている。尚、第 2 の溝部 104 B の軸方向に沿う厚さは薄く設定され、所謂係止用の肩部が規定されている。

【0036】

差込口 104 は、このような構造を呈しているので、再び図 10 に示すように、コネクタ 106 が差込口 104 に挿入されてくると、フラップ 110 の幅広の基端部 110 A は、第 1 の溝部 104 A を通り抜けながら、これの上底面で徐々に押し下げられることになる。そして、フラップ 110 の先端部 110 B に移行する段差部が、上述した肩部を通過した時点で、幅狭の先端部 110 B が自身の弾性力により第 2 の溝部 104 B 内に落ち込むように入り込むこととなり、これにより、フラップ 110 の段差部が差込口 104 の肩部に係止されることになる。このような段差部と肩部との係止関係により、コネクタ 106 の差込口 104 への差込状態が、抜き取り不能にロックされることになる。

【0037】

一方、この差込状態から、コネクタ 106 を抜き取る際には、フラップ 110 を自身の弾性力に抗して押し下げる。この押し下げにより、上述した段差部と肩部との間の係止状態が解除され、コネクタ 106 は差込口 104 から抜き出させられる状態となる。即ち、コネクタ 106 の差込口 104 へのラッチ状態が解除されることになる。この解除状態で、コネクタ 106 を差込口 104 から引き抜くことにより、コネクタ 106 は差込口 104 から引き出されることになる。

【0038】

このように構成されたコネクタ 106 及び差込口 104 の構成において、この実施例のロック用組体 10 を用いることにより、組み付けられたロック用組体 10 の第 2 の囲繞体 14 に一体的に形成された突出片 14 E が、フラップ 110 の押し下げ移動を邪魔するこ

ととなり、これにより、フラップ 1 1 0 の押し下げによるラッチの解除が阻止されることになる。この結果、コネクタ 1 0 6 は差込口 1 0 4 に差し込まれた状態を維持（即ち、ロック）されることとなり、コネクタ 1 0 6 の差込口 1 0 4 からの抜き取りが確実に禁止されることになる。

【0 0 3 9】

以上詳述したように、この実施例に係わるロック用組体 1 0 を用いて、ハブ 1 0 2 の差込口 1 0 4 に差し込まれているコネクタ 1 0 6 の、該差込口 1 0 4 への差込状態をロックすることにより、ハブ 1 0 2 に LAN ケーブル 1 0 0 を効果的にロックすることができる効果を奏することができるものである。これにより、安易に PC を他の場所に移動させることを含めて、盗難から有効に防止することができるものである。即ち、この実施例においては、従来のロック用のワイヤー等の連結具を用いて、PC をその設置場所に止め置くようにしていたことと比較して、PC の筐体に何ら別部材を接着することなく、ハブ 1 0 2 に既に連結されているコネクタ 1 0 6 の抜き取りをロック（禁止）することにより PC の、盗難防止の効果を奏することができるものであり、その有用性はきわめて高いものである。

【0 0 4 0】

特に、この実施例に係わるロック用組体 1 0 を用いる状態において、PC 1 0 2 を持ち去ろう（その設置場所から強制的に移動させよう）とする者は、LAN ケーブル 1 0 0 を切断するしか手段がなくなるものである。しかし、ひとたびこの LAN ケーブル 1 0 0 が切断されると、例えば、金属製のカタ刃が LAN ケーブル 1 0 0 内のコードに接触してショートする状態となり、このショート現象が、LAN ケーブル 1 0 0 が接続される相手側であるサーバにより検知されて、このサーバにおいて、LAN ケーブル 1 0 0 の意図しない切断が認識されえる状態となるものである。また、例えばショート現象が検知されない場合においても、切断された後の LAN ケーブル 1 0 0 においては、コードがオープン状態となるものであり、このオープン状態がサーバにより検知されて、同様に、このサーバにおいて、LAN ケーブル 1 0 0 の意図しない切断が認識される状態となるものである。

【0 0 4 1】

即ち、この実施例のロック用組体 1 0 を用いることにより、PC 1 0 2 の盗難を防止することのみならず、仮に盗難された場合において、即座にその盗難された事実を検知することが出来、これにより所謂セキュリティの向上を図ることができるものである。

【0 0 4 2】

この考案は、上述した実施例の構成に限定されることなく、この考案の要旨を逸脱しない範囲で種々の変形可能であることは言うまでもない。

【0 0 4 3】

例えば、上述の実施例では錠前を 2 個使用する場合につき説明したが、この構成に限ることはなく、第 1 の囲繞体、第 2 の囲繞体の形状を工夫することにより錠前を 1 個とすることが可能であることは言うまでもない。

【0 0 4 4】

例えば、上述の実施例では PC の差込口の数、LAN ケーブルの数がそれぞれ 5 個の場合について説明したが、この数に限定されるものではないことは言うまでもない。

【図面の簡単な説明】

【0 0 4 5】

【図 1】 この考案に係わるロック用組体の組み上げられた状態を示す斜視図である。

【図 2】 図 1 に示すロック用組体が組み付けられ、コネクタの差込口への挿入状態がロックされた状態を示す断面図である。

【図 3】 図 1 に示すロック用組体を構成する第 1 の囲繞体を示す正面図である。

【図 4】 図 3 に示す第 1 の囲繞体の側面図である。

【図 5】 図 3 に示す第 1 の囲繞体の平面図である。

【図 6】 図 1 に示すロック用組体を構成する第 2 の囲繞体を示す平面図である。

【図 7】 図 6 に示す第 2 の囲繞体の側面図である。

【図 8】 図 6 に示す第 2 の囲繞体の正面図である。

【図 9】 第 1 の囲繞体に第 2 の囲繞体を組み込む直前の状態を示す正面図である。

【図 1 0】 コネクタの差込口への挿入動作を示す断面図である。

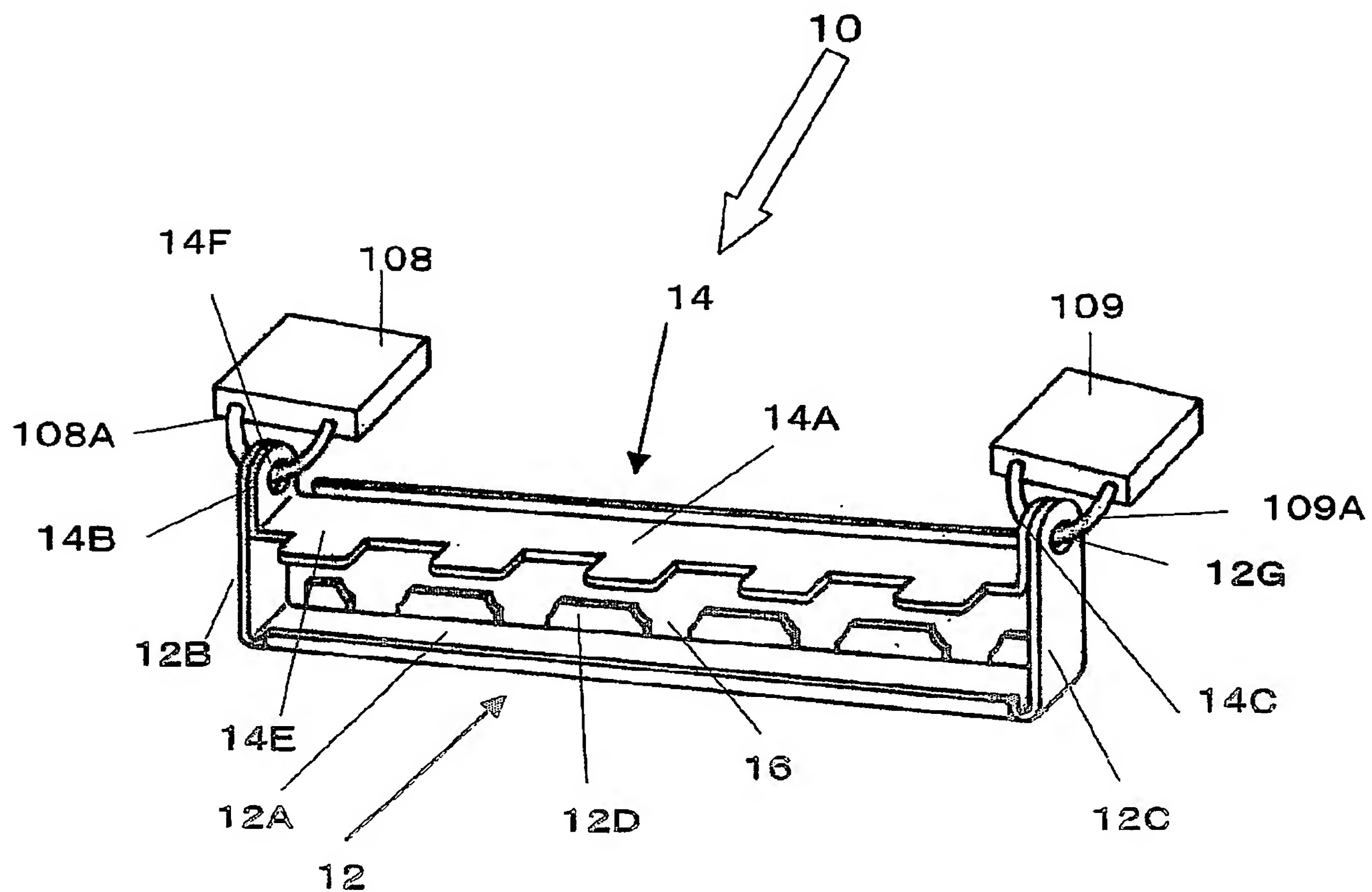
【図 1 1】 図 1 0 に示す差込口の構成を取り出して示す斜視図である。

【符号の説明】

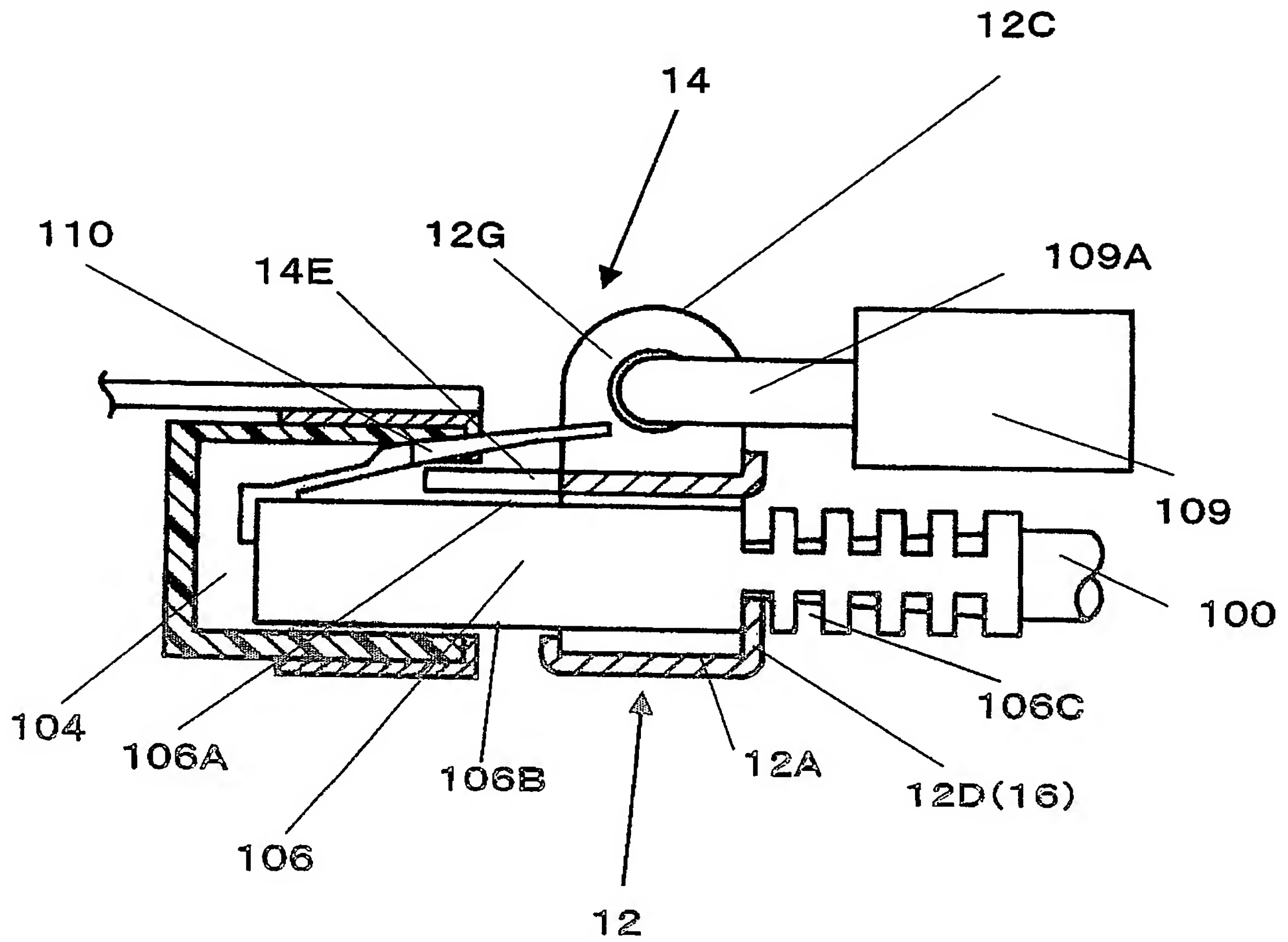
【 0 0 4 6 】

- 1 0 ロック用組体
- 1 2 第 1 の囲繞体
 - 1 2 A 底部
 - 1 2 B 第 1 の起立片
 - 1 2 C 第 2 の起立片
 - 1 2 D 第 3 の起立片
 - 1 2 F ロック穴
 - 1 2 G ロック穴
- 1 4 第 2 の囲繞体
 - 1 4 A 本体
 - 1 4 B 第 1 の起立片
 - 1 4 C 第 2 の起立
 - 1 4 E 突出片
 - 1 4 F ロック穴
 - 1 4 G ロック穴
- 1 6 係止用凹部（第 3 の起立片 1 2 D）
- 1 0 0 LAN ケーブル
- 1 0 2 ハブ
- 1 0 4 差込口
 - 1 0 4 A 第 1 の溝部
 - 1 0 4 B 第 2 の溝部
- 1 0 6 LAN ケーブル用コネクタ（コネクタ）
 - 1 0 6 A 上面
 - 1 0 6 B 底面
 - 1 0 6 C 溝部
- 1 0 8 錠前
- 1 0 9 錠前
 - 1 0 8 A ロック竿
 - 1 0 9 A ロック竿
- 1 1 0 ラッチ用フラップ
 - 1 1 0 A 幅広の基端部
 - 1 1 0 B 幅狭の先端部

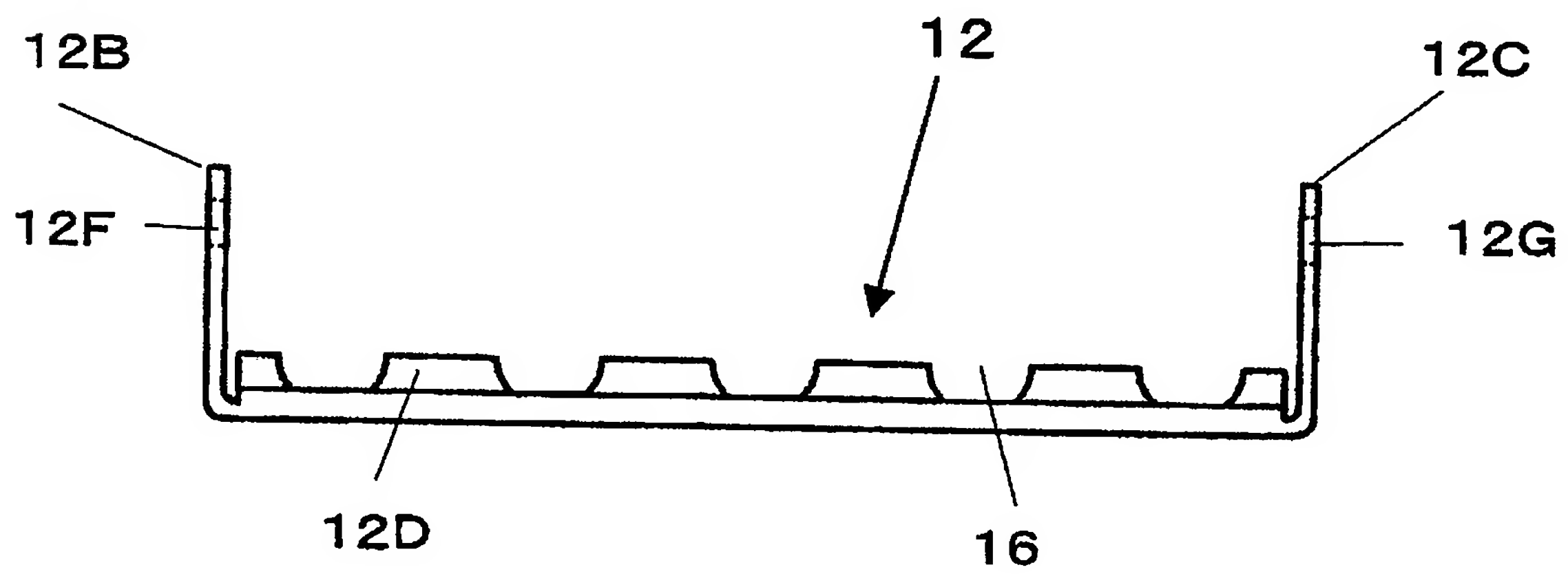
【書類名】 図面
【図 1】



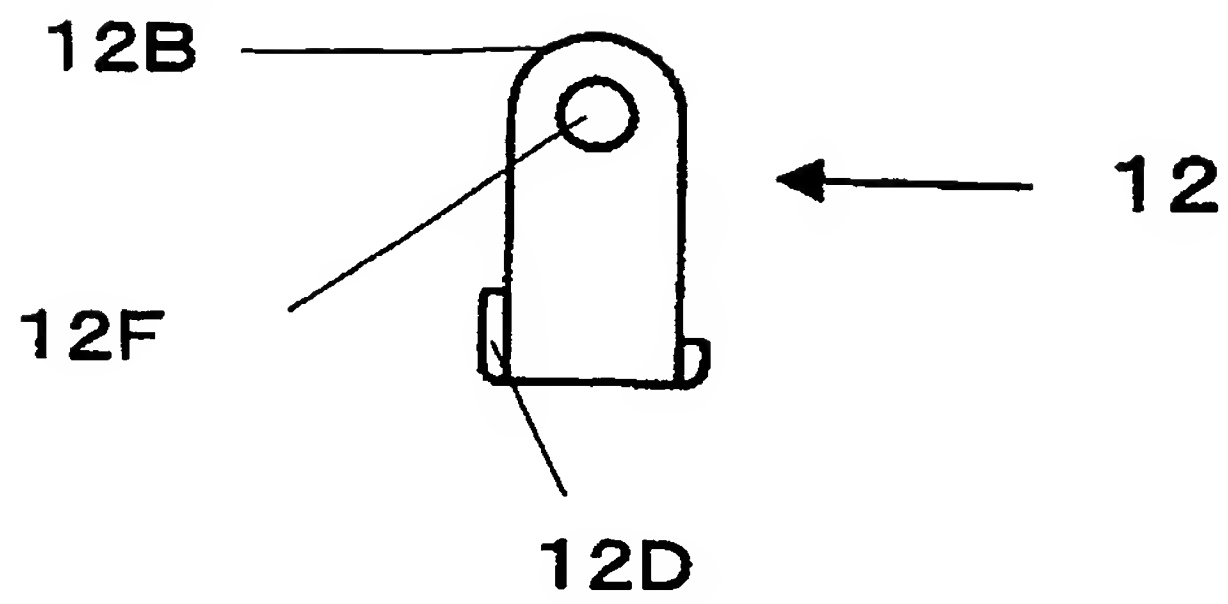
【図 2】



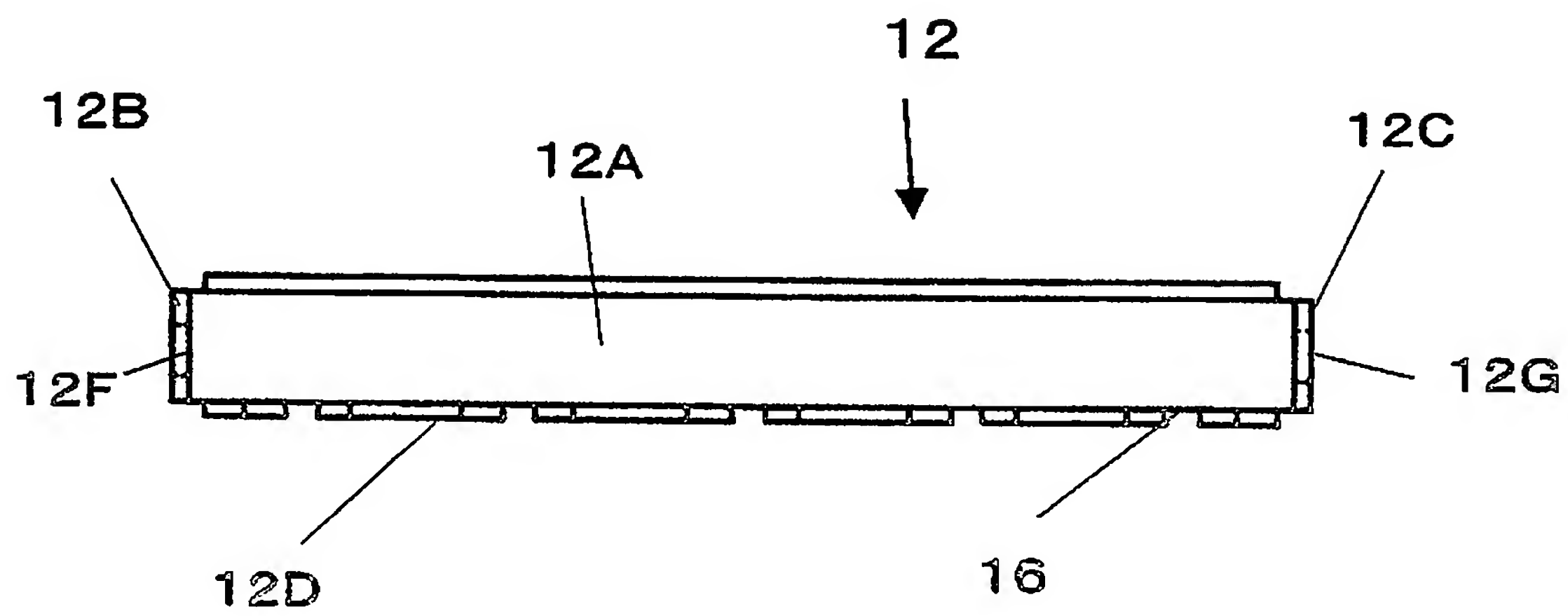
【図 3】



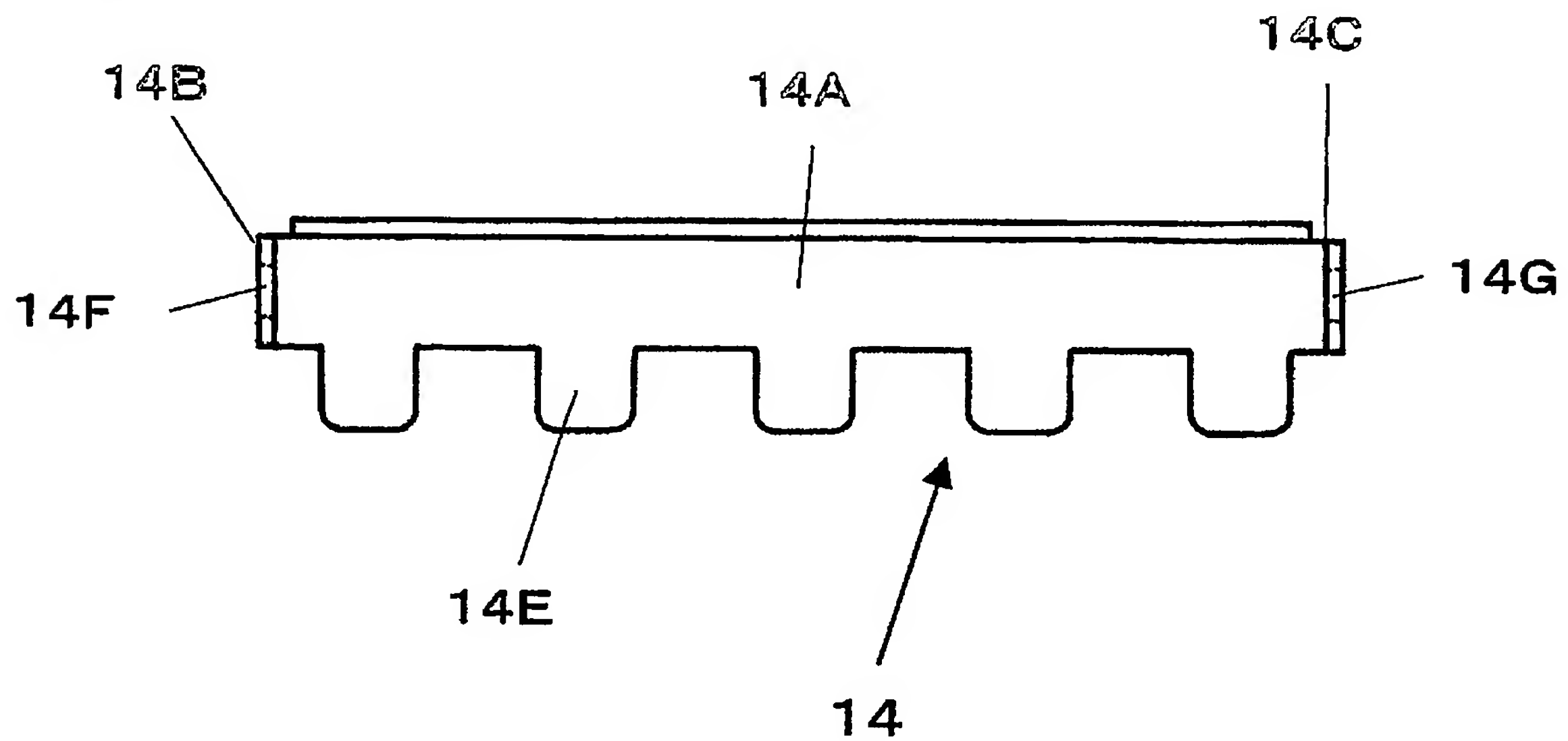
【図 4】



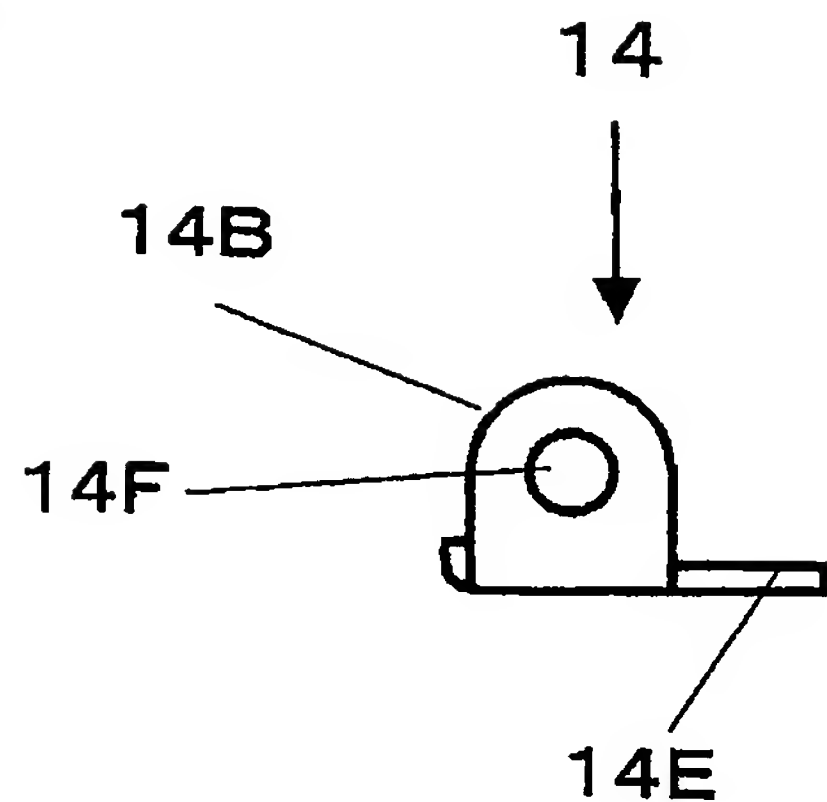
【図 5】



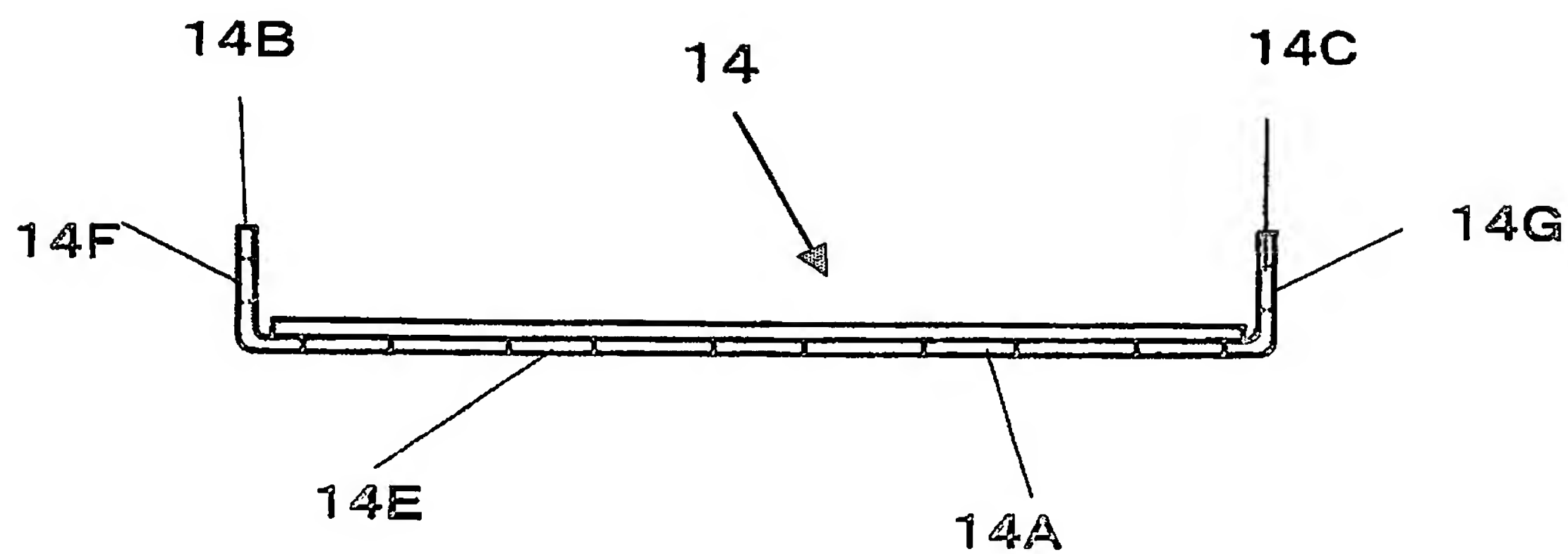
【図 6】



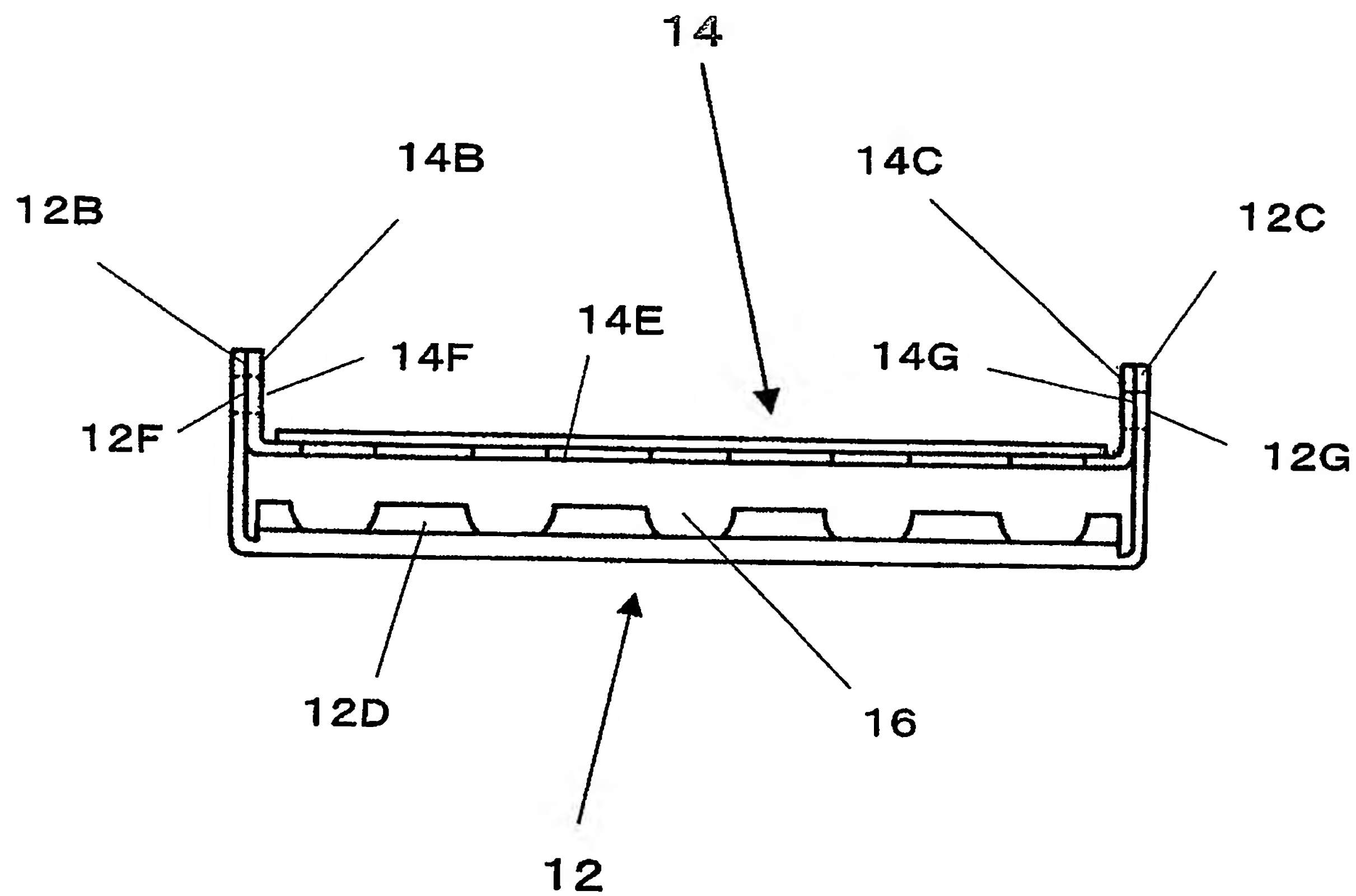
【図 7】



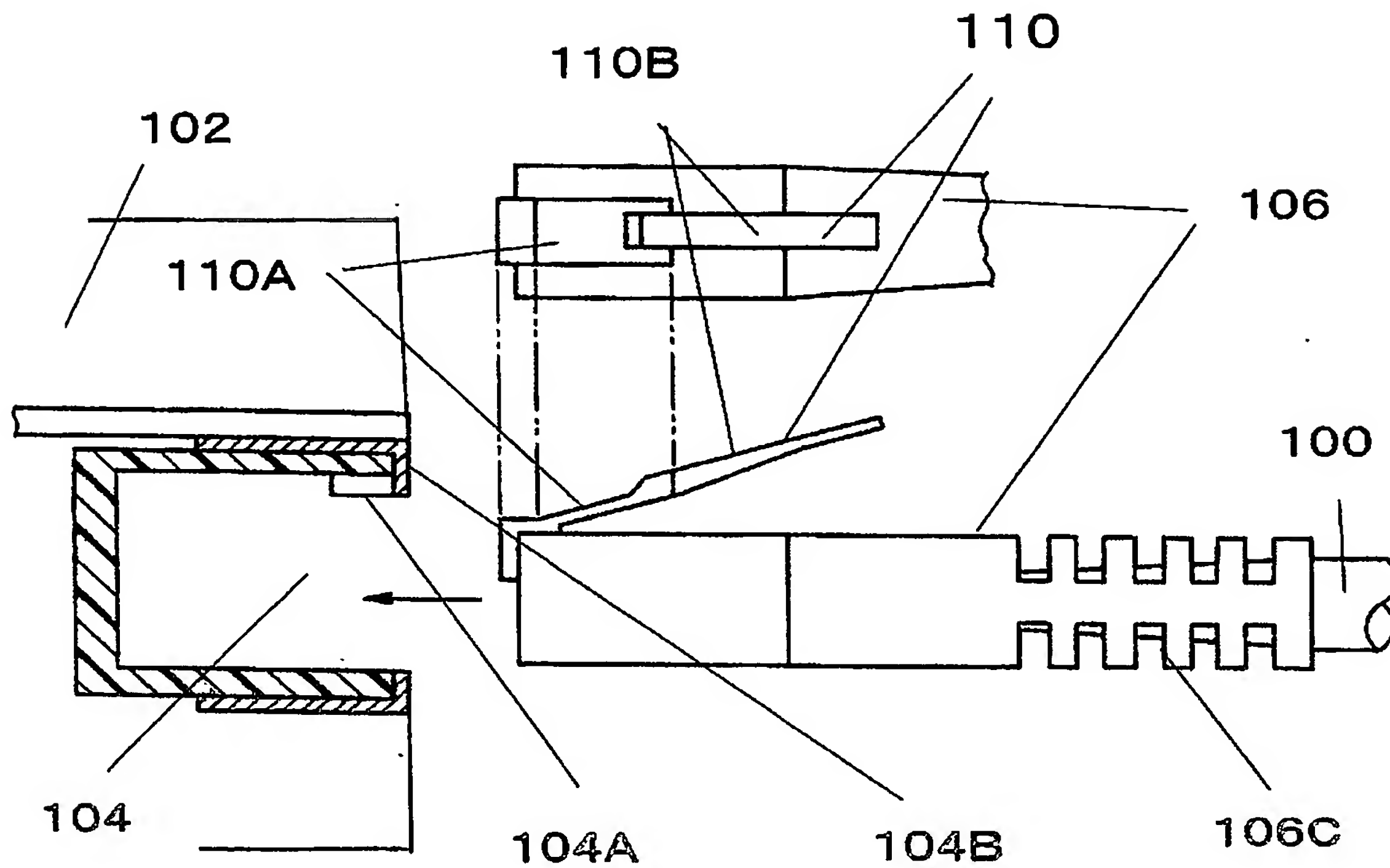
【図 8】



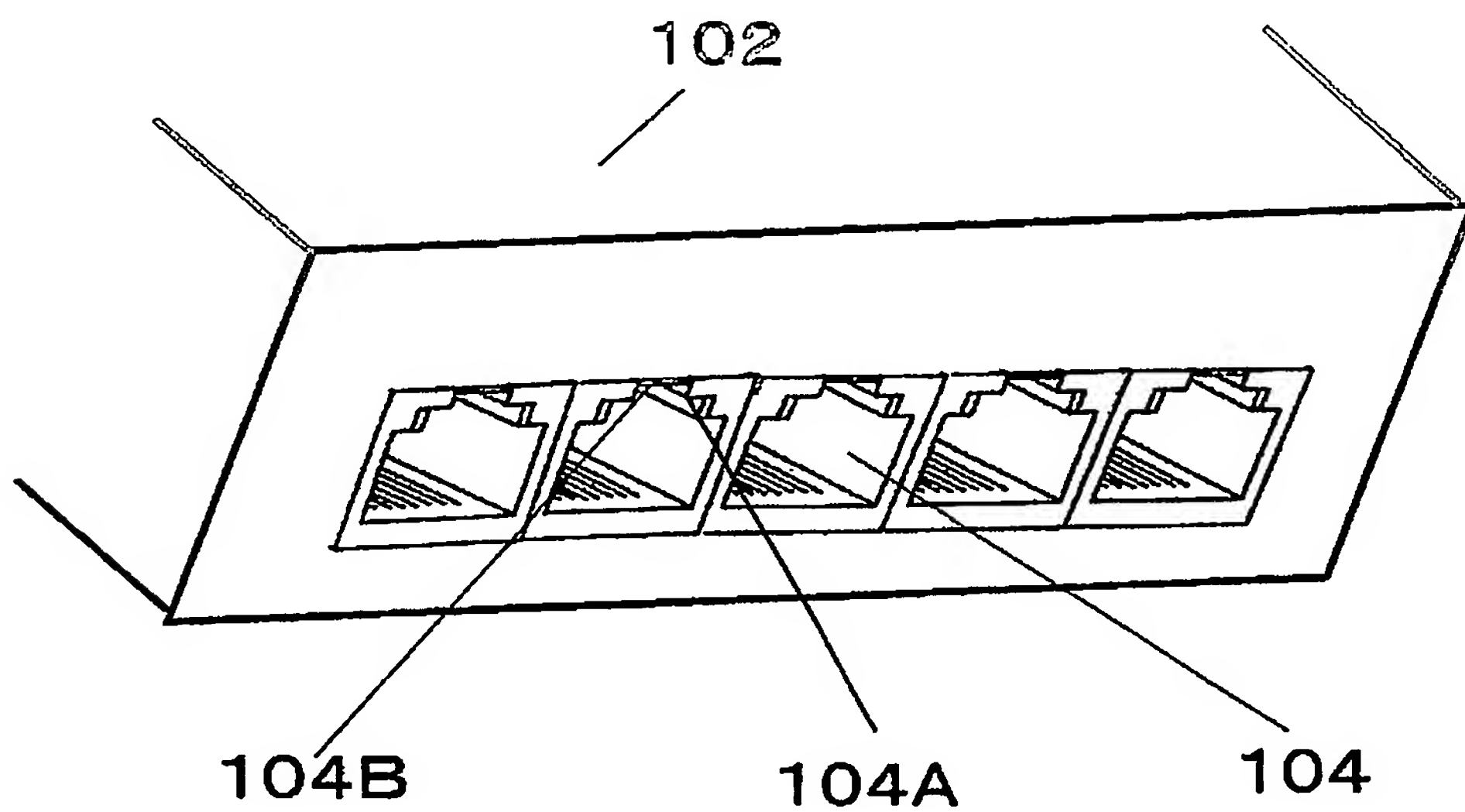
【図 9】



【図10】



【図11】



【書類名】 要約書

【要約】

【目的】 簡単な構成で、P C を実質的に移動することが出来ないようにして、盗難防止の効果を図ること出来る L A N ケーブル用コネクタのロック組体を提供することである。

【構成】 この考案に係わる L A N ケーブル用コネクタのロック組体 1 0 は、複数の L A N ケーブル 1 0 0 の先端に一体的に取り付けられ、抜き取り可能にコンピュータ 1 0 2 の複数の差込口 1 0 4 に挿入されて、その挿入状態をラッチされる L A N ケーブル用コネクタ 1 0 6 に着脱自在に取り付けられ、取り付けられた状態において、L A N ケーブル用コネクタ 1 0 6 の差込口 1 0 4 への挿入状態をロックし、取り外された状態において、L A N ケーブル用コネクタ 1 0 6 を差込口 1 0 4 から抜き取り可能とすることを特徴としている。

【選択図】 図 1

実願 2 0 0 3 - 2 7 1 5 7 5

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[5 0 1 3 5 9 4 1 2]

1. 変更年月日

2 0 0 1 年 9 月 1 2 日

[変更理由]

新規登録

住 所

神奈川県横須賀市鷹取町 1 丁目 4 0 番地

氏 名

株式会社リンテック